

1 はじめに

建築ITコミュニケーションデザイン論 #1

本江正茂

2015年4月15日 (水)

担当教員

本江正茂 Masashige Motoe

- 一般連絡用：motoe@archi.tohoku.ac.jp
- レポート提出用：motoe2+aitcd@gmail.com
- この講義のウェブページ <http://www.motoelab.com/blog/20150414012905.html>

年次・学期

- 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻博士課程前期
- 水曜3限 (13:00~14:30)
- 青葉山キャンパス人間・環境系研究教育棟 建築第三講義室 (104)

講義の趣旨

建築とITコミュニケーションを統合的なひとつのデザインの問題として考える。

オフィス、学校、図書館などの建築空間の多くは、その内部で情報の授受を行うことが主要な役割であった。しかし、近年の情報技術の革新によって、建築空間と情報の関係は大きく変化した。これからの空間と情報のデザインを考えていくためには、両者の相互作用を根本的に見直す必要がある。両者は別々の分野ではなく、そのデザインにあたっては総合的に検討されなければならない。この講義では、テクノロジーのみならず、社会学、芸術、哲学、認知科学などの分野にも視野を広げ、空間と情報にかかわる諸理論と事例を展望する。

受講に当たっては、必ずしも予備知識は必要ない。履修後は、空間と情報の相互作用に関する常識的知識の一端を獲得することによって、両者を見渡した地点から、新たな問題を考えはじめられるようになることが期待される。

2015年度のスケジュール

1. 4月15日 はじめに
2. 4月22日 データの表象
3. 5月13日 空間の表象
5月20日 (休講)
4. 5月27日 身体と空間(1)動くことと見ること
5. 6月3日 身体と空間(2) 意味や価値は世界のどこにあるか？
6. 6月10日 身体と空間(3)速度とスケール
7. 6月17日 情報と情報でないもの

- 8. 6月24日 情報と社会
7月1日 (休講)
- 9. 7月8日 情報と都市
- 10. 7月11日 (土) 建築とアーキテクチャ
- 11. 7月15日 建築とコンピュータ
- 12. 7月22日 建築とワークプレイス

評価方法

- 期末レポートを評価の主材料とする。別紙参照。
- すぐれたレポート等はウェブサイト等で公開することがある。

教科書・参考書・リンク

- 教科書は特に指定しない。
- 授業では、原則として毎回ハンドアウトを配布する。ハンドアウトは各回授業終了後にウェブサイトへ置くので、欠席した場合などはダウンロードすること。研究室に取りに来ても準備はない。
- 講義内容に関する疑問、質問、感想、意見など、随時上記のメールで受け付ける。

参考文献

各回のトピックにふさわしい参考文献をその都度示す。
以下に講義全体に関連する文献をあげる。

- ウィリアム・J・ミッチェル『シティ・オブ・ビット：情報革命は都市・建築をどうかえるか』掛井秀一, 田島則行, 仲隆介, 本江正茂 訳, 彰国社, 1996
- 港千尋『第三の眼：デジタル時代の想像力』廣済堂、廣済堂ライブラリー002、2001
- 鈴木明『インタラクショナルデザインノート』神戸芸術工科大学大学院, 2003
- 原研哉『デザインのデザイン』岩波書店, 2003
- 江渡浩一郎『パターン、Wiki、XP』技術評論社、2009
- 渡邊恵太『融けるデザイン』ビー・エヌ・エヌ新社、2015

本日のミニワークショップ：

この科目を履修するにあたって、何を学ぶことを期待しているか。

学籍番号と氏名

Q1. この講義に関連すると想像するキーワードを10個挙げよ（5分）

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10

Q2. 3人で組になり、上記リストのキーワードを共有し、自分があげなかったものを加え、足りない場合は議論してさらに増やし、キーワードを20個追加せよ。（10分）

- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16
- 17
- 18
- 19
- 20
- 21
- 22
- 23
- 24
- 25
- 26
- 27
- 28
- 29
- 30

Q3. 上記30個のキーワードのリストから、自分にとって特に関心のあるものを5~7個選んで印をつけよ。

Q4. この科目を履修するにあたって何を学ぶことを期待しているか、200字程度で述べよ。

書けたものから提出して退室してよい。